

フランス語の発音記号の読み方

2021 年 7 月 10 日

(2021/08/16/21:31 最終更新)

——① 母音篇 β——

注意

- この PDF を読むまえに、まずは**必ず**^①この動画を見てきてください：
👉前川喜久雄「講義 音声学入門」(2020, YouTube: 国立国語研究所)
※時間がない場合は、21:13 ごろから始まる「母音の音声学的分類」のみでもよい。
- 上の動画をつうじて、じぶんがどんなふうに発音しているかについて観察できる気がしてきた方はこの PDF を読んでください。その水準に達しなくても、以下の言葉の意味について知っていることが望ましいです：**基本母音**、母音の広狭(=舌輪郭の最高点の高低位置)、舌輪郭の最高点の前後位置、母音の「円唇性」(=唇の丸め、唇の突き出し)
- この文書は友達の一人がフランス語の綴り字に苦しんでいるので書いたものです。私は音声学やフランス語の専門家ではありません。
- この PDF は当初一本の予定でしたが、時間が足りなかったので ① 母音篇、② 子音篇の二つからなります。

1. フランス語の発音記号が表しているものってなに？

わたしたちが発音できる音は非常に豊富です。発音される音には一定の振れ幅があります。食事中^②や口の中に怪我をしているときなどには、変ではあるけど聞き取ることはできる発音をした経験があるかもしれません。はたまた学校の合唱で、普段よりも口を大きく広げたり、「喉を開い」たりするように指導されたことのある人もいるかもしれません。こうしたときにも音の詳細は変わっています。もちろん、喉などの形状の細かな違い、構音障害、母語の影響などに起因する個人差によっても変わります。

しかし自然言語は、これらの多様な音を単位に切り分け、「k」や「a」のような、一つの子音、一つの母音、一つのグループとして意味の伝達をになわせます。古典音韻論では、このグループを**音素**と呼んでいます。音素は // で囲んで示します。たとえば、日本語には /a, e, i, o, u, p, t, k, w, r, y, .../ などの音素があるといえます。

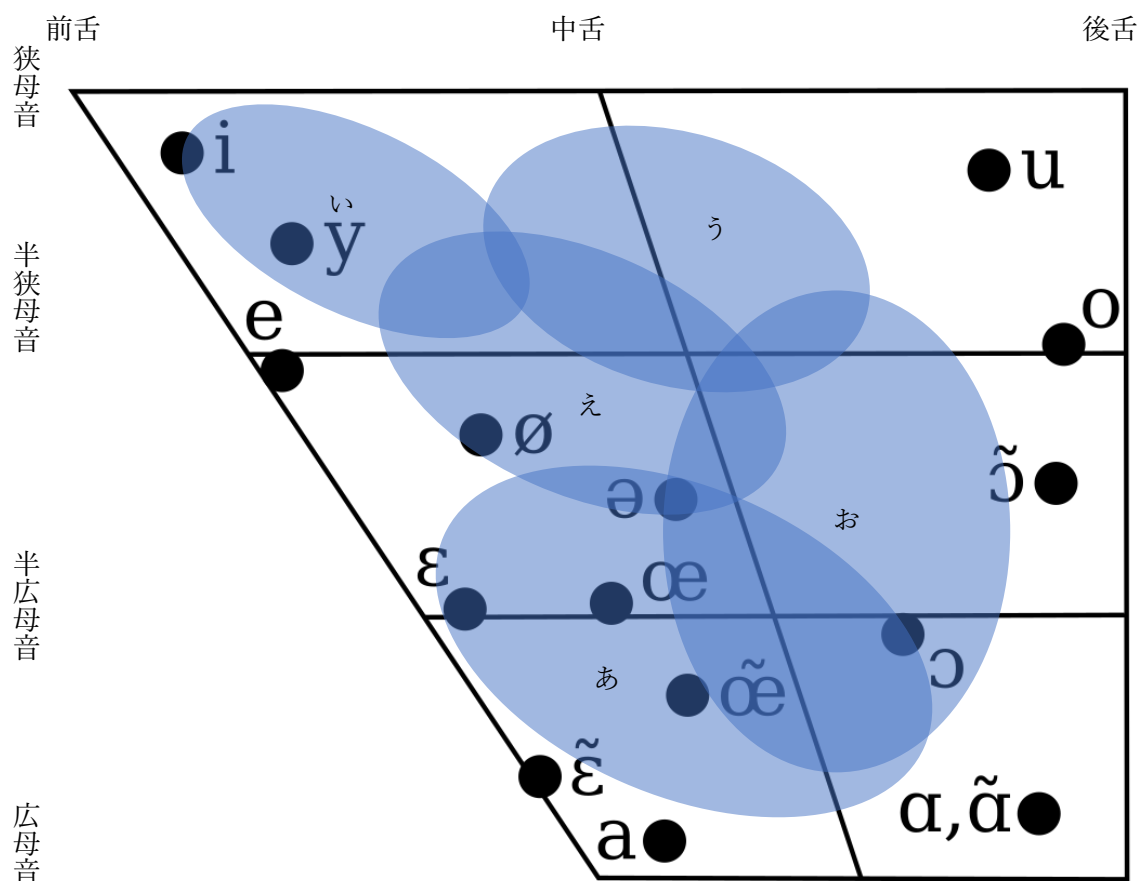
① 音声学の基礎を済ませている方はとくに視聴する必要はありません。

② 日本の文化では、お行儀が悪いとされています。

フランス語の発音記号も**おおむね**音素に対応しています^③。フランス語や英語のような溺れてしまうくらいに深い正書法(英: deep orthography)を持つ言語を学習するときは、発音記号をおぼえておく大変に便利です。しかしながら、この発音記号が読めたとしても、それらの音素がどんな場所でどんな多様な表情を見せているのかを知ることができるわけではありません。つまり、——たまたま勘違いしている方がいますが——**発音記号が読めたところで発音が完全にわかるわけではない**のです。そういうことが知りたくなったときはぜひ、フランス語の音声学的記述、音韻論、韻律論などについて学びましょう。(このシリーズでは軽くしか触れません)

2. フランス語に現れる母音音素

基本母音をつかってフランス語にあらわれる母音の音素（母音音素）を表すと、下図のようになります。日本語の母音音素は青丸のなかにひらがなで示しましたが、適当な目安です。



③ 仏和辞典の発音記号は純粹に理論的なものではなく語学の道具なので、発音を知るうえで便利そうなものを詰め込んであることがある。例えば類音素(英: diaphoneme)や条件異音などがその一つである。

画像：英語版ウィキペディア ‘French Phonology’にある母音四角形（Collins & Mees (2013[2003]:225–226)から孫引き）
に、前川喜久雄「講義 音声学入門」27:19にある日本語の母音を手書きで重ねた

黒丸●で示されている母音はぜんぶで 14 個あります。数が多いので怖くなる人も居ると思います。でも大丈夫④です。しかも、パリ付近の変種はいくつかが合流して失われていて少なくなっています。大丈夫だから安心しましょう。

3. フランス語の口腔母音

これらの母音のうち、口腔母音(英: oral vowel)というチルダが上についていない母音の発音を大雑把に示すと、次の表のようになります。フランス語の円唇母音は、唇を丸める日本語の円唇母音とはちがって唇を突き出すらしいことには注意しましょう。「発音」欄に書いたのは私の内省を多分に含むものなのには注意してください。

※網掛け部は仏都市部で部分的あるいは全面的に合流している母音

母音			
IPA	仏都市部	日本語に入った例	発音
a	a	ballet 「バレエ」 /ba.le/	非円唇前舌広母音。前舌性に気をつける。
ɑ		foie gras 「フォアグラ」 /fwa.gʁɑ/	非円唇後舌広母音。「ココア」のア。スイス、ベルギー、ケベックには区別が残っている。パリでも面倒な条件ではまだ現れるらしいので、おぼえておいて損はない。
e		atelier 「アトリエ」 /a.tə.lje/	非円唇前舌半狭母音。「きみのせい」の e(すくなくとも私の内省では)。日本語の e より狭め。
ɛ	ɛ	baguette 「バゲット」 /ba.gɛt/	非円唇前舌半広母音。「ええ〜？」の母音。
ɛː		crêpe 「クレープ」 /kʁɛːp/	↑の長母音。スイス、ベルギー、ケベックには区別が残っている。
i		piment 「ピーマン」 /pi.mɑ̃/	非円唇前舌狭母音。日本語のイみたいな感じ(日本語のイが結構狭いことに注意)。
œ	œ	hors-d'œuvre 「オードブル」	円唇前舌半広母音。

④ 世界的にはちょっと多い。でもエリザベス女王とかが話してる英語の 11 母音に毛が生えたくらいだから安心しましょう(安心しましょう)。

		/ɔ̃k.dœ:vʁ/	
ə	œ	de「ド(属格の前置詞。人名とかでよく見る)」	音声学的には、後ろが /j, w, ɥ/ のような渡り音か /i, y, u/ のような狭母音を含む音節のときは/ø/に；それ以外は /œ/に合流している。音韻論上は挙措が異なる。
	ø	/d(ə)/	
ø		pot-au-feu「ポトフ」 /pɔ.to.fø/	円唇前舌半狭母音。初めて知ったときにいう「へえ～」の母音に近いけど、少しだけ狭いかも。ケベックには区別が残っている。
o		manteau「マント」 /mɑ̃to/	円唇後舌半狭母音。冒頭の動画を参考に↓を狭めるイメージ。
ɔ		objet「オブジェ」 /ɔb.ʒe/	円唇後舌半広母音。感心したときに言う「おお～！」の母音。語末では /o/ に合流するが、ベルギーには区別が残っている。
u		rouge「ルージュ(赤い)」 /ʁuʒ/	円唇後舌狭母音。日本語のウよりも後舌なので、舌輪郭の最高点をすこし後ろにする。
y		buffet「ビュッフェ」 /by.fɛ/	円唇前舌狭母音。「へえ～」の母音の容量で「イ」というときの唇を丸める。

4. フランス語の鼻母音

鼻音とは口蓋帆(上顎の奥のほう)を下げて鼻にぬけるように発音する音のことです。フランス語には、鼻音をともなった母音である**鼻母音**があります。

じつは、日本語の発音のなかにも鼻母音は現れています。「ん」を母音・ヤ行・ワ行の前で発音すると、口の中のどこにも舌がつかない「ん」が現れます(例:「単位」「勘案」「今夜」「談話」)。この「ん」の状態が鼻母音です。また、鼻子音に隣接する母音を発音するときに鼻母音になる方も多いです。なお、[] でかこった発音記号は「音素ではない／音素とは記号が違うが、実際にはそういう発音になる」ということを示すもので、この表記のことを**音声表記**といいます。

鼻母音			
ā	[ð]~[ʒ]	antique「アンティーク」 /ɑ̃.tik/	円唇後舌広鼻母音。「ココア」のアとコの母音を混ぜて、「今夜」のコの感覚で鼻母音にする感じ。
ē	ẽ	dessin「デッサン」 /de.sɛ̃/	非円唇前舌狭めの広鼻母音。がんばれ。
œ		たぶんない。(例:不定冠詞男性単数 un /œ̃/)	円唇前舌半広鼻母音。がんばれ。南仏、スイス、ベルギー、ケベックには区別が残っている。
ō	[ð]~[ũ]	crayon「クレヨン(鉛筆)」	円唇後舌中段鼻母音。「今夜」のコに近いと思う。

5. フランス語の長母音

3章で触れたように、パリ付近のフランス語には長短の区別がありません。しかし、**特定の環境では長母音として発音されます**。不思議に思うかもしれませんが、日本語には鼻母音がないけど、特定の環境では鼻母音が現れる(4章参照)みたいな感じです。

- 長母音が現れる場所は必ず強勢がある。フランス語の強勢は一般に、単語の最後にある母音に置かれる。ただし、単語の最後が /ə/ の場合は、その次の母音に置かれる。
- 強勢があるとき、/ø, o, a/ と全ての鼻母音は子音のまえに現れるとかならず長母音になる。
- 強勢があるとき、全ての母音は単一の有声摩擦音 /v, z, ʒ, ʁ/ のまえに現れると長母音になる。例：rouge /ʁuʒ/ [ʁu:ʒ] 「ルージュ」、ただし tarte /tɑʁt/ [tɑʁt] 「タルト」
- 🖐の例外として、有声摩擦音のみからなる子音連続である /vʁ/ のまえに現れるときだけは、長母音になる。(/vʁ/ のまえではない)

謝辞

本稿の誤字や不具合にコメントをくださった hsjoihs さんに感謝もうしあげます。